

# 建設的な提案が市民力を上げる

ながれ

吉澤 武彦 (よしざわ たけひこ／一般社団法人日本カーシェアリング協会 代表理事)

今回私に市民力について執筆の依頼をいただいたのは、おそらく私が東日本震災後に被災地である石巻で始めた寄付で集めた車を活用した支え合いの仕組みを、大学や企業や行政などと連携しながら作りあげていった経験があるからだと理解しています。

市民力とは市民が社会へ与える影響力のことだと思うのですが、そういう意味では私が行っていることは、一つの市民活動が大学や企業や行政を多少なりとも動かしたといえるのかもしれません。限られた原稿の中ですが、私なりのやり方をお伝えさせていただきます。

私が意識していることは1つだけです。

「建設的な提案をする」

無理なことは言いません。お願いもあまりしません。私がするのは、協力してもらいたい相手にとって有益であり、相手が無理なく実行できる提案をしているだけです。提案した内容が本当に有益で実行しやすいものだったら、人や組織は動くのです。

例えば、私たちは地元の石巻専修大学の自動車工学を学んでいる学生たちに授業の一環で、私たちの車の点検やタイヤ交換を年2回無料で行っていただいています。私たちにとっては無料で点検やタイヤ交換を行ってもらえるので大変助かります。しかし、実は大学にとっても学生たちが普段学んでいることを実践する場となり、地元の報道機関にも取り上げていただくなどしてPRの機会にもなっているのです。もし、これが本格的な整備をコンスタントにお願いしたいとなるとできないでしょう。しかし年に2回、カー用品の交換を中心に実施するとすると大学側も授業の中で安心して行えるのです。

この大学とのタイアップの際、交換いただ

くタイヤやオイル等のカー用品はメーカーから無料で協賛いただいています。これは、それぞれのメーカーが自社商品を使った自社らしい社会貢献の方法を模索している中で、その機会として提案したことからの協力体制が実現しました。アウトレットの商品がある場合はそれを使用いただいたりしています。要するに無理のない範囲で協力いただいているのです。

行政との連携についてもご紹介します。石巻市では地域から車を使った支え合いのニーズが上がってくると、私たちを専門家として地域に派遣しサポートする体制ができています。これは、住民主体の助け合いを進めようとしている石巻市の政策に合致し、効果が確認できたため、そうした連携が始まったのです。但しこの連携の形を作るのに2年の歳月を要しています。行政には行政のペースがあり、それを見越して無理なくじっくり共に進める姿勢を持つことで実現できたのです。

社会に影響を与えるためには特に行政・企業・政治・マスコミの特性をきちんと把握しておいた方がよいでしょう。そうした機関へ建設的な提案をきっちり行っていけば、たとえ個人であったとしても社会に少しずつ変化を与えることができるようになります。

市民活動とは、仲間を募って募金をしたり、ボランティアをしたりというイメージをもつ方も多いかと思いますが、そうした活動もよいと思いますが、本当の意味で市民が力を持つにはそれだけでは難しいと思います。適切な機関に対して建設的な提案を堂々と行い、社会を具体的に良い方向に導くことができる市民を一人でも多く作るこそが、市民力を上げるためには重要だと思います。